

**決済の未来フォーラム デジタル通貨分科会**  
**中央銀行デジタル通貨を支える技術**  
**～CBDCに求められるユニバーサルアクセス～**

---

# **新世代のインフラに求められる要件**

## **～モバイル通信事業のケーススタディから～**

**2021年6月**  
**株式会社NTTドコモ**

# プロフィール

名前： 江藤 俊弘（えとう としひろ）

現職： 株式会社NTTドコモ スマートライフビジネス本部  
金融ビジネス部 FinTech推進室長

## <略歴>

1990年NTT入社。  
97年NTTリース（現NTTファイナンス） 出向を経て、  
2002年よりNTTドコモ。

ドコモでは、主に金融・決済領域の事業創出に取り組んできた。  
05年クレジット事業「iD」「DCMX」の立ち上げに携わった後、  
09年「ドコモ ケータイ送金」、10年「ドコモ ワンタイム保険」、  
11年「ドコモ口座」など、ドコモの新たな金融・決済サービスをリリース。

併せて、企業アライアンスにも注力してきた。  
09年イオンとイオンマーケティングを共同設立。  
12年インテージとドコモ・インサイトマーケティングを共同設立。  
15年には、dポイント推進でローソン・マクドナルドと業務提携。  
21年には、三菱UFJ銀行とデジタル金融サービスに係る業務提携。



# モバイル通信市場、30年間の変遷

## 時代とともに、消費者の行動も大きく変容

1987

はなす



個人ユーザーへの  
広がり

1987年  
携帯電話サービス開始  
1993年  
デジタルムーバ提供開始



1999

つかう



話すケータイから  
使うケータイへ

1999年  
iモードサービス提供開始  
2001年  
FOMAサービス提供開始  
(世界初3Gサービス)



2004

かざす



行動支援ツールとなる  
生活インフラ

2004年  
おサイフケータイ提供開始  
2005年  
電子マネー「iD」提供開始



よりそう



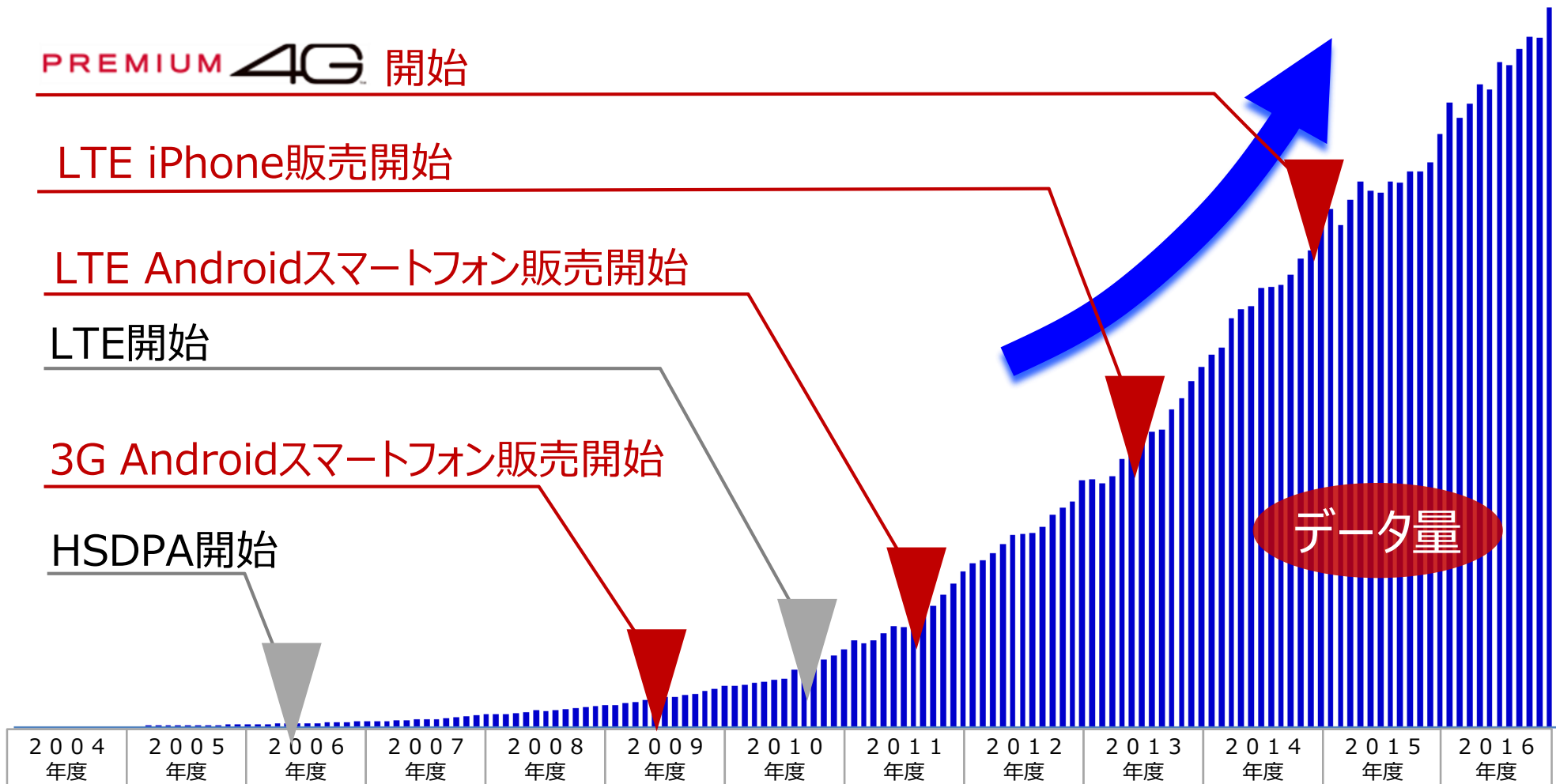
新たなモバイルの時代  
スマートライフへ。

2010年  
LTEサービス提供開始  
2011年  
dマーケット提供開始  
2018年  
My daiz提供開始



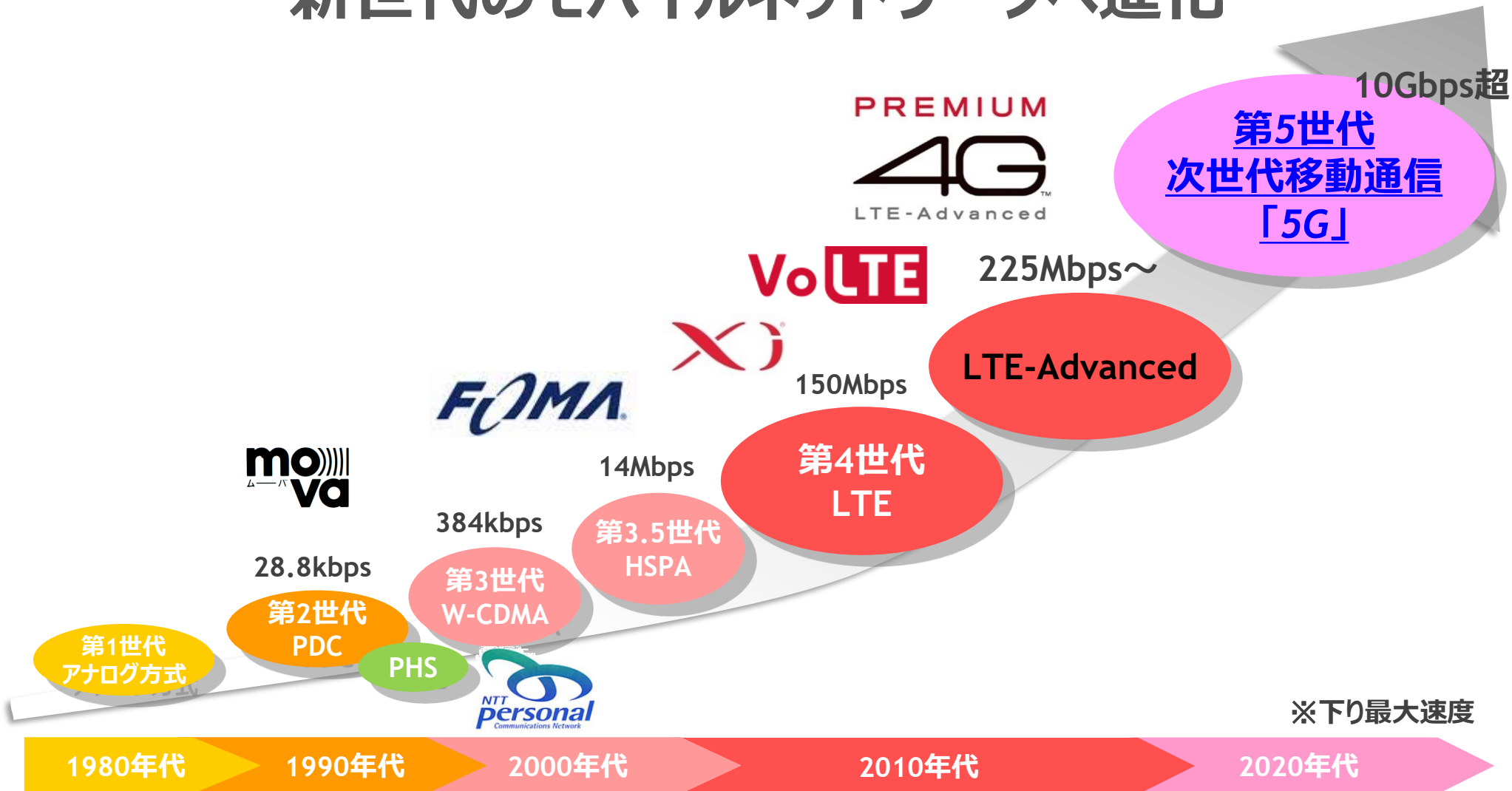
# モバイル通信データ量の推移

消費者の行動変容により、モバイルデータ量は急増



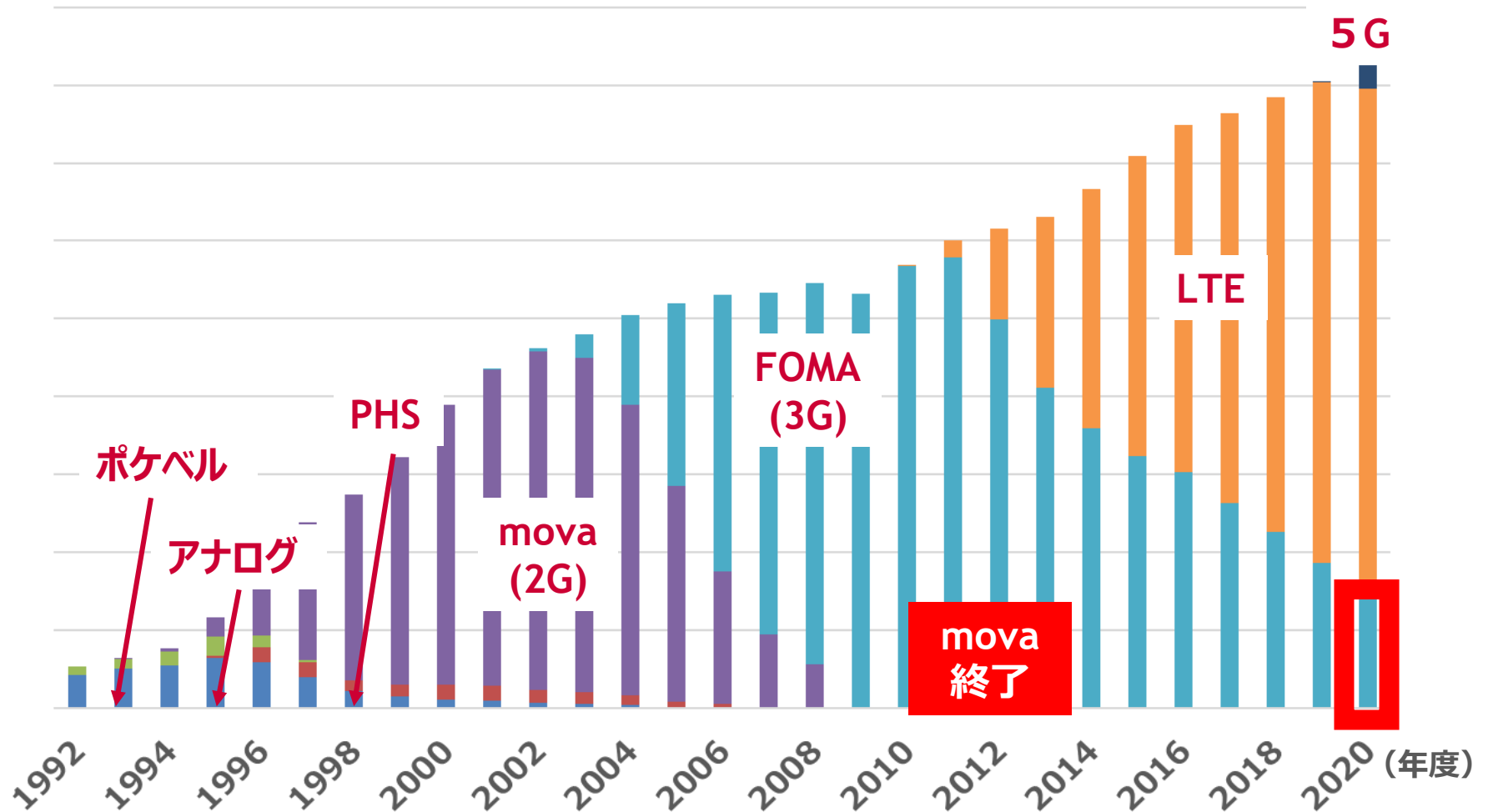
# モバイル通信ネットワークの進化=世代交代

データ量の増加を支えるため、約10年周期で、  
新世代のモバイルネットワークへ進化



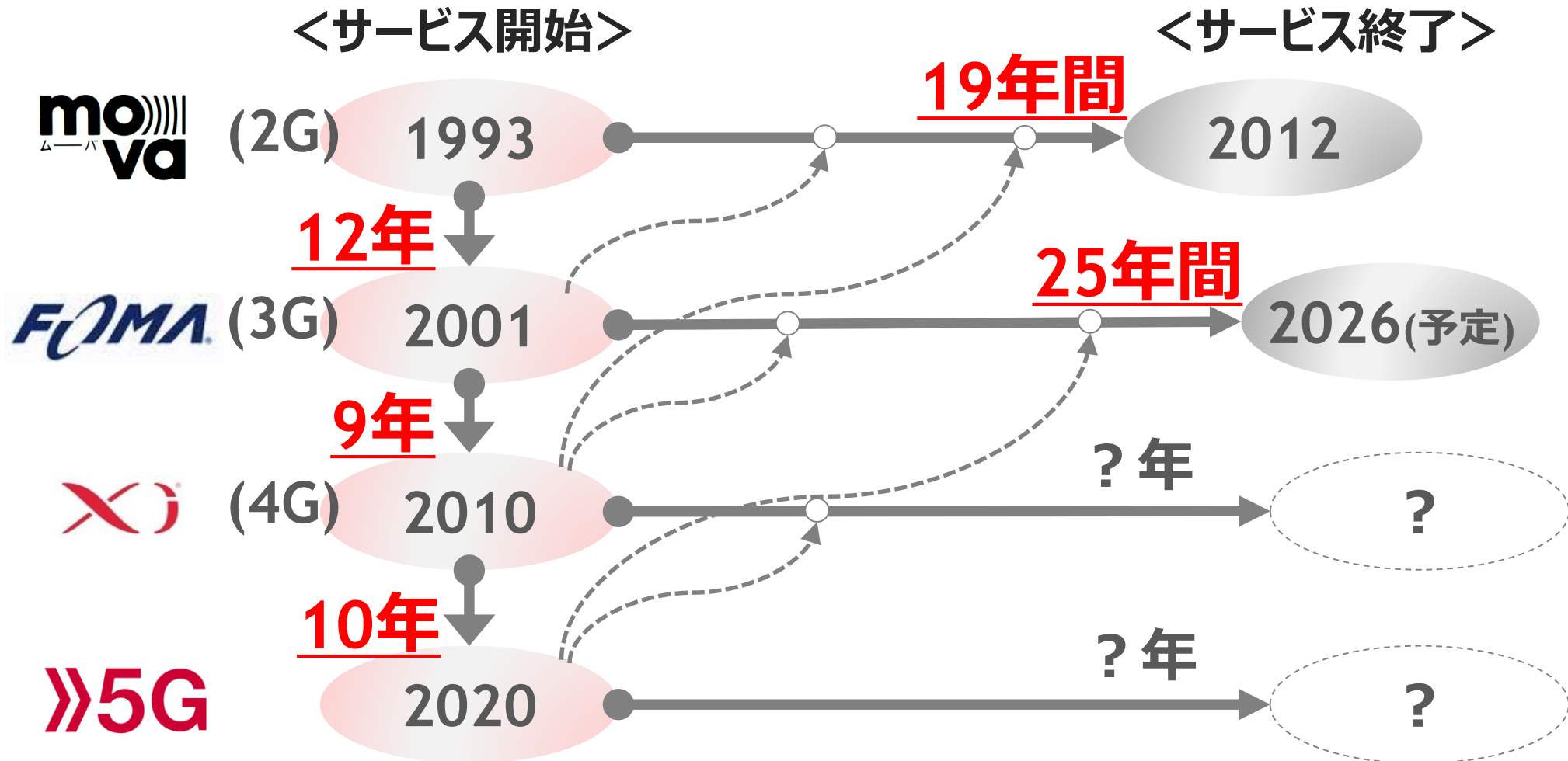
# 30年間のドコモ回線契約数の推移

国内モバイル市場は飽和状態ではあるが、各時代で、“旧方式”ご利用のお客様移行に向き合う必要があった



# 新しい技術の登場～その浸透 (1/2)

国民インフラたるモバイル通信ネットワークの「世代移行」は、長期間かつ大規模プロジェクト

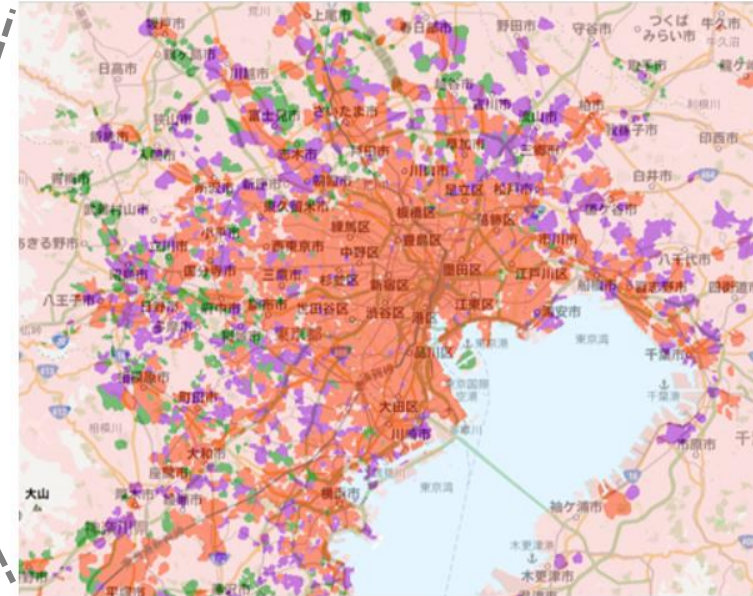
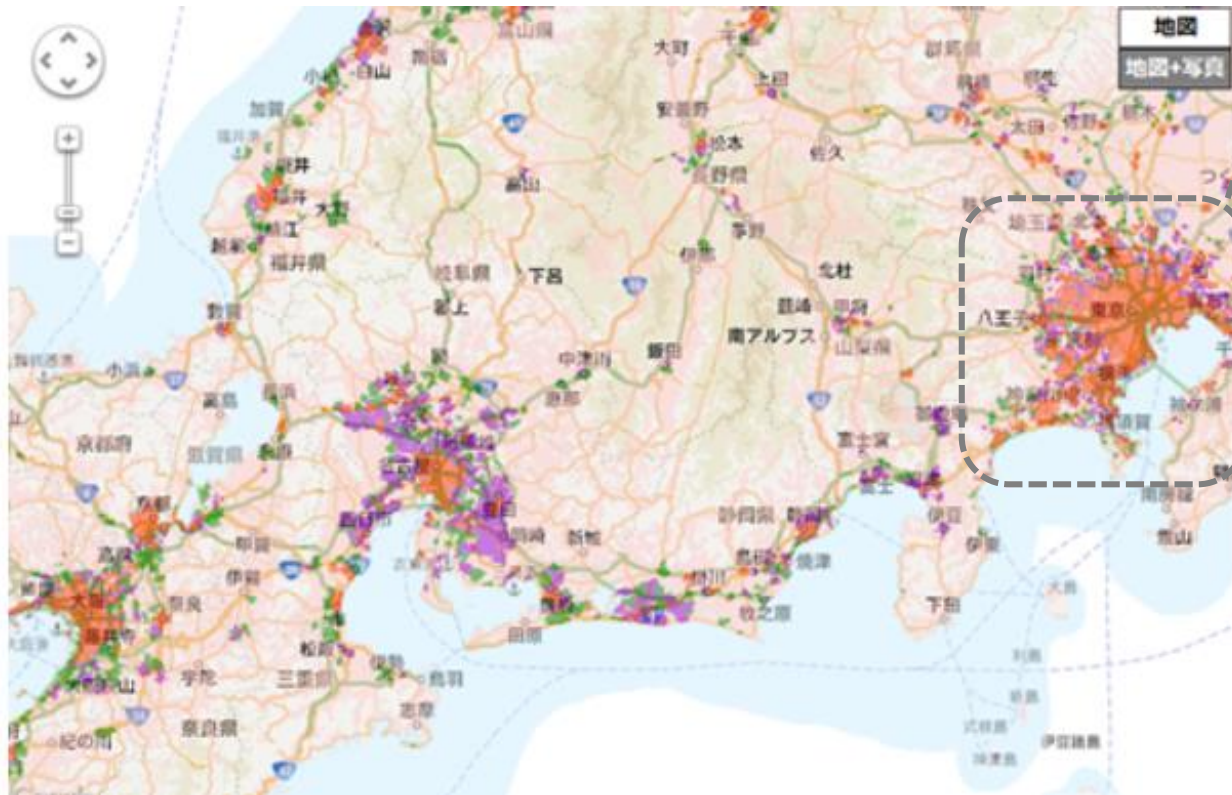


# 新しい技術の登場～その浸透 (2/2)




新世代インフラは都市部から浸透 = 地域差あり、  
根源的には、決済インフラの普及にも発生しうる観点

<2012年時点のXi(LTE)東名阪エリア>

参考: 東京都市部 (拡大)



## Xiエリア

	2012年5月末時点でのサービスエリア
	2012年8月末までの拡大予定エリア
	2012年11月末までの拡大予定エリア



# 【まとめ】新世代のインフラに求められるもの

## 当社のモバイル通信事業のケーススタディから、 新世代のインフラ導入に求められる要件をまとめる

	求められる要件	モバイル通信のケーススタディ
利用者 視点	<b>最重点</b> 明確なインセンティブ は存在しているか？ (利便性、価格)	← 高速・大容量通信 低額・定額料金の導入
提供者 視点	利用者ニーズの合理的な 解となりえているか？ (機能改善、コスト効率化)	← 急増するデータ量への対応 システム信頼性の向上 初期～【キャズム】～浸透 に至る格差
システムの 考慮点	下位互換性を 保有できているか？	← 3G⇒LTEの下位互換性